

四日市大学

生成 AI 利用ガイドライン【学生向け】第 2 版

2026 年 6 月 24 日制定

はじめに

ChatGPT、Claude、Gemini などの生成 AI は、皆さんの学習を支援する強力なツールです。四日市大学では、生成 AI の利用を一律に禁止するのではなく、学習効率の向上とリテラシーの獲得のために、**課題内容や目的に応じたサポート的な活用を推奨**します。

ただし、生成 AI は万能ではありません。使い方を誤れば、学びの機会を失ったり、不正行為とみなされたり、思わぬトラブルにつながることもあります。このガイドラインは、皆さんが生成 AI と適切に付き合うための指針です。**課題を遂行する主人公はあくまで AI ではなく皆さん**です。自分の能力を向上させ、成長するためのアシスタントとして AI を活用しましょう。

1. 基本方針：3 つの原則

原則 1：各授業の担当教員の指示を最優先とする

生成 AI をどの範囲で使ってよいかは、**授業ごとに異なります**。担当教員がシラバスや授業内で示すルールに必ず従ってください。このガイドラインは全学共通の前提であり、各授業の方針はこれに優先します。教員から特に指示がない場合は、このガイドラインに沿って判断してください。

原則 2：自分で判断できる範囲で使う

生成 AI の出力を**自分自身で検証できる範囲**で活用してください。AI が出した答えの正しさを自分で確認できないなら、それを採用してはいけません。

原則 3：最終的な責任は自分にある

生成 AI を使って作成した提出物の内容について、**責任を負うのは皆さん自身**です。「AI がそう言ったから」は理由になりません。

2. 推奨される使い方

以下のような使い方は、学習の質を高める活用として推奨します。

2-1. アイデアの整理・思考の補助として使う

- 自分の考えを整理するために壁打ちする
- 研究テーマや論点について多角的な視点を得る
- ブレインストーミングやアウトライン作成の補助

2-2. 文章の改善に使う

- 誤字脱字や文法ミスのチェック
- 文章構成や論理展開のフィードバックを受ける
- AI の修正結果を分析し、なぜその表現が適切なのかを理解することで文章力を向上させる

2-3. 学習の効率化に使う

- 授業内容や専門用語の理解を深めるための補足説明を求める
- 調べるべき文献や概念のリストアップ（ただし実在を必ず確認すること）
- データ分析の方法や統計手法の助言を得る

3. やってはいけないこと

3-1. 課題の丸投げ・コピー&ペースト

「〇〇についてのレポートを書いて」と AI に指示し、生成された文章をそのまま自分のレポートとして提出することは**不正行為**です。これは自分の考えを放棄する行為であり、学びの機会を自ら捨てていることになります。

3-2. 検証せずに情報を採用する

生成 AI は、もっともらしいウソをつくことがあります（ハルシネーション）。存在しない論文を引用したり、誤った数値を提示することがあります。AI が出した情報は必ず**一次資料（元の論文、公式サイト、教科書など）で確認**してください。

3-3. AI の出力をそのまま参考文献にする

「ChatGPT によれば...」「Claude が提示したデータによると...」という引用は**学術的に不適切**です。AI の出力は情報源ではありません。**AI が言及した文献は、必ず原典を自分で入手・確認した上で引用**してください。

4. 情報の取り扱い：絶対に入力してはいけないもの

生成 AI に入力した情報は、AI の学習に再利用されたり、第三者に提示される可能性があります。

す。以下の情報は**絶対に入力しないでください**。

入力禁止

- **他人の個人情報**（友人・教員を含む氏名、連絡先、学籍番号など）
- **未公開の研究データ・授業資料**（教員が学内限定で共有した資料など）
- **第三者の権利に関わる情報**（権利関係が不明な写真・音声・作品など）

入力に注意が必要

- **自分自身の個人情報**（氏名・住所・連絡先など）は、本当に必要な場合のみ、利用規約を理解した上で入力してください

上記のような情報を入力する可能性がある場合は、生成 AI の**学習機能をオフ**にするなどの対処を推奨します。

5. 生成 AI を使ったことの明示

生成 AI を活用した場合は、どの部分でどのように使ったかを明記してください。これは不正行為を避けるためだけでなく、自分自身の AI 活用プロセスを振り返り、学びを深めるためでもあります。

記載例

- 「本レポートのアウトライン作成に ChatGPT を使用した」
- 「文章の校正に Claude（2026 年〇月〇日使用）を活用した」
- 「〇〇の概念理解のために Gemini に説明を求めた」

6. 著作権について

生成 AI の出力が、既存の文章・画像・音楽などに酷似している場合、著作権侵害になる可能性があります。AI の出力をそのまま使用せず、自分の表現として再構成してください。また、既存の作品に似せた出力を意図的に生成させること（例：「〇〇風の文章を書いて」）は避けてください。

7. 生成 AI との賢い付き合い方

生成 AI は「答えをくれる機械」ではなく、「**考えるための道具**」です。

電卓が計算力を代替してくれるように、生成 AI は文章の整理や情報の検索を効率化してくれます。しかし、何を計算すべきかを考えるのは人間の仕事であるように、何を調べ、何を考え、何を主張するかは皆さん自身が決めることです。

AI の力を借りることを恥じる必要はありません。しかし、AI に頼りきりになることは、皆さん自身の成長を止めることとなります。AI との対話を通じて、自分の能力を高める姿勢を大切

にしてください。

8. 困ったときは

生成 AI の利用について判断に迷うことがあれば、**利用前に担当教員に確認**してください。「使ってよいかどうかわからないから使わない」のではなく、「わからないから聞いてみる」という姿勢が大切です。

このガイドラインは、技術の進歩や社会状況の変化に応じて適宜更新されます。

2026年6月24日 制定